

平成16年度「農業・生物系特定産業技術研究機構飼料イネ研究連絡会議」

飼料イネ生産・利用に関する研究成果の早期普及と地域農業に密着した現地情報の交換等の場が期待されています。

平成16年6月24～25日に中央農業総合研究センター大会議室において、平成16年度農業・生物系特定産業技術研究機構飼料イネ研究連絡会議が開催されました。会議には飼料イネ研究の実施機関である畜産草地研究所、中央農業総合研究センター、作物研究所、東北農業研究センター、近畿中国四国農業研究センター、九州沖縄農業研究センター、生物系特定産業技術研究センターから45名が参加しました。

会議は機構内で実施中の飼料イネ研究、政府委託プロジェクト「ブランド・ニッポン」(3系・畜産)、地域農業確立総合研究「寒冷地における家畜糞尿堆肥利用による飼料稲の栽培・利用体系の確立」、「北陸における高品質大麦一飼料用イネ輪作システムの確立」、「関東地域における飼料イネの資源循環型生産・利用システムの確立」、「中国中山間における飼料用稲を基軸とする耕畜連携システムの確立」、九州沖縄農研七の飼料イネ研究について、研究の現状と課題について総合的な検討を行いました。最後に閉会挨拶をされた農業・生物系特定産業技術研究機構小川 奎理事は「耕種・畜産研究者の連携で、成果の普及と現場実証を自信を持ってやって欲しい」と強調されました。

今後の会議推進は推進責任者として、中央農業総

合研究センター有原関東東海総合研究部長、作物研究所井邊稲研究部長、畜産草地研究所小川家畜生産管理部長があたり、運営は各研究機関から推薦された幹事会(幹事長：畜産草地研究所吉田上席研究官、事務局：中央農業総合研究センター石田チーム長)によって行うことが確認されています。

会議後、第1回幹事会を行い今年度の活動内容等を検討しました。早速、7月15日～17日に飼料イネ生産・利用技術の先進地と畜産物流通に関する視察(鳥取県畜産農協および京都生協)を行っています。

(家畜生産管理部 上席研究官 吉田宣夫)



飼料イネ研究連絡会幹事の現地視察(鳥取県)